文京CGアニメショー開催

7作品がTAF上映決定

「第12回文京CGアニメショー2011」が8月5日、本郷キャンパスBSカフェで開かれました。

第1部では、学生作品の上映と投票があり、第2部で選考通過作品上映、審査と表彰が行われました。司会は経営学部倉嶋ゼミの学生たちが協力して担当し、出品者が最も緊張する瞬間を、上手に和らげました。

今年は18本の作品が出揃い、以下の7作品が選ばれました（敬称略）。

「カッコよくなった…？」＝高木哲平（経営学部2年）「さんぽ」＝西山千晶（同2年）、「にんじんたべよう」＝春山侑紀（同2年）、「Candy」＝若島愛（同2年）、「拾われたその日に」＝雨堤正樹（同2年）、「海のバケモンあらわる」＝田島大揮（同2年）、「奮闘記～どうしてこうなった～」＝斉藤ひかる（同2年）

これらの作品は、来年の東京国際アニメフェア（TAF）文京ブースで上演されます。

審査員の講評では、作品そのものに対するアドバイスに加え、「教員の質問に対して食い下がって回答する姿を見て、学生と教員の良い関係がうかがえた」という微笑ましい内容もありました。

審査は、アニメ・ゲーム界などで活躍中の次の著名な方々が担当（五十音順、敬称略）。大和田悟史（ミュージカル「忍たま乱太郎」脚本・演出）、河原真明（映画「豆富小僧」監督）、川村順一（本学大学院客員教授／ゲームプロデューサー／宝塚大学教授）、高橋哲人（映像音楽家／Audio Visual Factory TETSUJIN主宰）、米川充洋（株式会社サンライズライツプロモートチーム）。

第3部では、クリエイティブ・トークとして本学大学院でもご指導いただいている高橋哲人氏が、これまで自身が関わった作品を上映しながら、クリエイターとしての苦しみや醍醐味について語りました。

学生ドキドキの選考の瞬間